

「大学と地域で共助の街づくり！」

～大学と地域とあなたでつくるつながり～

平成 29 年 12 月 3 日（日）13:30～16:30 於首都大学東京大講堂

主催：特定非営利活動法人 八王子市民活動協議会（地域ネット実行委員会）

共催：一般社団法人八王子自治研究センター&TMU（首都大学東京多世帯地域交流事業みなみおおさまカフェ）

後援：八王子市

主催者来賓挨拶（13：30）

【主催者挨拶】八王子市民活動協議会 理事長 石井利一

八王子市民活動協議会のミッションは地域市民活動活性化にあり行政共々地域と繋がっていくことにあります。特に八王子の 21 大学の若者とシニアの交流には強い思いがありました。地域包括支援センター南大沢の皆様、民生委員、町会自治会の方々、和気先生を初め、首都大学東京の皆様のご援助とご協力で開催に至りました。第 19 回オトパ南大沢の際、地域包括支援センター南大沢の皆様や和気先生の学生さん達のご協力でカフェを開催し、シニア臭い会場が若さで漲りビックリしました。「みなみおおさまカフェ」は毎月開催され、間もなく 1 周年を迎えるに当たり是非繋がりを作りたいと思い、第 2 回シンポジウムのテーマに上げさせて頂きました。これまでのいろんな方のご支援とご協力のお陰で、我々が念願して来ました若者とのシンポジウムがいよいよ始まります。どうか真摯なご討議を宜しくお伝えしまして、私からの挨拶と致します。

【来賓挨拶】首都大学東京都市環境学部教授（学長特任補佐）西村 和夫 氏

本来なら学長が挨拶するところですが生憎海外出張中のため代わりに挨拶致します。大学で交流シンポジウムを開催して頂き心から感謝申し上げます。本学では教育学の大きな柱として世代を超えた交流、大学と地域の交流、フェンスがない、どこからでも入り易い構造になっています。開かれた大学であってほしい、是非地域の人と交流を深めることは、将来に向けて大きなプラスになると考えています。是非これからも世代を超えた大学と地域の交流活動をして頂けるよう、温かく見守って頂けますようお願い申し上げます。

第 1 部；基調報告（13:40）首都大学東京「LINK topos 2017 in Osaka」参加メンバー

【公立大学と地域社会のこれから】

一公立大学学生ネットワーク全国大会「LINK topos 2017 in Osaka」に参加して一
司会；岸本尚大（社会福祉大学教室修士課程）

LINK topos は全国でも取り分け地域活動を熱心に活動している学生ばかりの集まるイベントでした。夫々の地域特有のトピック、問題を自由な発想のもとで活動している学生たちの交流は私たちにとって大変刺激的なものでした。LINK topos は今回のシンポジウムテーマ「大学と地域で共助のまちづくり」に近い全国的な学生の集いであり、基調報告の依頼を引き受けました。LINK topos 参加報告になってしまいますが学生と地域の連携の事例報告になれば幸いです。

【LINK topos について】LINK topos2017 運営メンバー水越智一（航空宇宙システム工学域修士課程）

LINK topos（公立大学協会「全国公立大学学生ネットワーク」及び全国大会の愛称）は大会を通じてお互いの知識や経験を主に価値観を共有して持ち帰ることを目的としています。LINK topos 第 1 回開催は 2013 年岩手県立大学、2014 年第 2 回開催は兵庫県立大学、2015 年開催は名古屋市立大学、2016 年開催は九州私立大学、今年 2017 年開催は大阪市立大学で規模は次第に大きくなっています。LINK topos の切っ掛けは 2011 年東北大地震です。2011 年 11 月 2 日岩手県立大学でシンポジウムが開催され、2012 年公立大学学長会議に並行して学生のワークショップが開催され、これを礎に第 1 回 LINK topos に繋がっていきます。回を重ねる度に互いの知

識・経験・想い・価値観を学んで共有する学びの場になっています。岡山の高齢化率の高い地域の問題とか、熊本の地震の問題とか、これら地域の抱える問題に対して学生が活躍できる場、学んでいく場になっています。首都大学東京参加は2016年第4回開催九州私立大学に2名（水越・ボランティアセンター職員）で参加したのが始まりです。どこの大学にも学内 LINK topos があります。首都大 LINK topos は地域貢献団体と価値観を共有し、連携を強化し、地域貢献団体視点の強化を目的としています。関東地域 LINK topos を盛り上げるため首都大 LINK topos への期待は大きい。

【LINK topos 第5回大阪市立大学参加報告】

・第1日報告；水越智一（航空宇宙システム工学域修士課程）LINK topos2017 運営メンバー

今年の LINK topos は2017.10.2（月）～3日間大阪少年自然の家と大阪市立大学を会場として開催されました。参加者は学生職員計141名で「オリエンテーション➡4テーマのプレゼンテーション➡分科会」が流れました。

・第2日報告；斉藤志恩（社会福祉学教室修士課程）みなみおおさまカフェ

大阪市立大学杉本キャンパスで開催され①地域福祉②地域裁定と活性③公立大学の地域貢献④海外旅行の4つのグループに分かれ、首都大は③に参加しました。現状分析では先ず「話題提供者からの情報提供」があり、外部環境分析（機会と脅威・強みと弱み）に続き、グループ同士のセッションがありました。午後ブラッシュアップの時間があり、グループで再度話し合いがありました。最後にチームごとに分かれて発表がありました。私たちは「勝手にしやがれ大作戦」というテーマで「地域貢献するにはどうすればよいか」を報告しました。

・第3日報告；柳田英明（物理学専攻博士後期課程）首都大学東京ボランティアセンター

公立大学学長会議と学生との「ポストセッション」を設け、学生から学長に向けての発表をしました。前橋の学長から様々な質問を受ける等意義深い時間でした。午後3人の学長とのセッションがありました。その中で昭和都市芸術大学鷺田清勝学長との話と LINK topos 代表の前田君の話に感銘を受けました。鷺田学長の話は「地方と中央都市が分立している状況から互いに享受し合う仕組みについて、高度経済成長期の中で命のケアを金で買う社会構造とセーフティネットについて」でした。前田君の話は「変化と出会いを求めて LINK topos に参加して入ること、LINK topos を通して如何に活動を広めていくか、よそ者・若者・馬鹿者たれ。井の中の蛙大会を知らず、されど空の深さを知る」でした。

・纏め；斉藤志恩（社会福祉学教室修士課程）みなみおおさまカフェ

「公立大学と地域社会のこれから」どのように関わっていくのか、何を求められているのか、何をすべきか、深く考える切っ掛けとなりました。公立大学の魅力は行政機関・地元企業・地域住民との垣根が低く協働体制が形成し易いことが考えられます。LINK topos に参加し公立大学だからこそできる地域との関わり方について改めて考えさせられました。「みなみおおさまカフェ」は地域との繋がりづくりの一つだと思っています。先月無事一周年を迎えることができました。これからも地域との関係を深めていけたらいいなあ…と思っています。

・感想；岸本尚大（社会福祉学教室修士課程）

最近大学の地域貢献が叫ばれるようになってきました。LINK topos では地域の大学貢献も各地で起こっているようです。地域のニーズも踏まえた上で関わっていかないといけないと感じました。地域から学生に対して期待される現象も起こっています。アルバイトや学業や就職活動のスケジュールが厳しく地域活動の兼ね合いに難しさを感じている学生も中にはいます。全国で活動している学生や先生からこのような課題が提起されたことは印象的でした。〇〇貢献という文字を外してみても如何でしょうか。貢献し合うことも大事ですが、地域課題にどうポイントするかが大切なことだと思っています。お互いの負担にならないように、お互いの認識のずれが軽減できるように、活動を行う上での問題意識を共有し協働という枠組みの中でお互いの立場や認識を押し付けることなく活動していくことが大切なのではないかと陰ながら感じました。私たちは日頃よりご活躍されている皆様方と一緒に活動させて頂いております。これらの経験は私たちにとってかけがえのないものと皆様には感謝の念で一杯です。このシンポジウムのタイトルは「大学と地域で共助のまちづくり」でしたが、是非これからも大学と地域、共助の街づくりに参画させて頂きましたら幸いです。ご清聴有難うございました。

第2部；学生と地域の交流事例と課題（14:00）詳細配布資料参照。

司会；八王子市自治研究センター 理事長 藤岡一昭 氏

LINK topos について学生さんから報告がありました。私たちが学生の頃は地域のことなど全く考えていなくて就職のこととか自分の将来のことしか考えていませんでした。こういう形で地域へのアプローチを考えている学生が、しかも具体的に全国区で活躍している学生さんがいることは素晴らしいことです。今日初めて大学に来られた方…学生さんを除けば半分以上とお見受けします。西村先生から首都大学東京は開かれた大学ですと紹介がありましたが、どこからでも入れるということですので、八王子の皆さんへのこれだけのアプローチに対してこのような関係性ができたことでシンポジウムの一つの目的は達成されてと言えます。これから4団体の皆さんに夫々アプローチして頂きたいと思います。

【八王子市の地域包括ケアに向けた大学との連携】 八王子市福祉部高齢者福祉課 課長 溝部和祐 氏
詳細配布資料「八王子市の概要・地域包括ケアを支える自助互助及び考える機会・大学と連携した取組」参照。
LINK topos の活動は素晴らしいと思いました。みなみおおさまカフェの活動も再確認させて頂きました。先ず八王子市の概要を紹介させて頂きます。八王子市は都内初の中核市になりました。21の大学を抱えた学園都市です。大正6年から今年で100年目の各種イベントをやっております。人口は56万人で横ばいですが平成22年から27年までは0.4%減っており人口減少は八王子市も例外ではありません。要介護者はご覧のように軒増しております。地域包括ケアシステムは費用負担の観点から見て自助・互助（ボランティア）・共助（保険）・公助（税金）の4つがあります。「生活支援・介護予防」は自助・互助に期待しており、大きな力にはなりませんが推進には課題も多くあります。高齢者が地域で見守られながらいつまでも元気に暮らせる街づくりを大学と連携し取り組んで行きたいと思っております。大学と連携した取り組みとして3件紹介します。帝京大学とは「地域住民の方々を対象に介護予防のボディーコンディショニングの運動指導と健康講話」を実施しました。大学の専門的な教授も含めてプログラムを実施して頂き、本格的な介護予防や健康増進に繋がる活動をデータとして取れる形で結果を上げているところがございます。東京造形大学は映像とかメディアを得意とする大学で「住民主体による地域活動を分り易く周知するための団体PR動画」を作成して頂きました。地域の団体に非常に喜んで頂き効果があったと思っております。もう一つは「地域包括ケアシステムについて考える機会」を学生さんたちの気付いて貰うための講義です。講義の中で学生に提案を求めた課題として3件照会します。一つは「高齢者と留学生とのシェアハウス」の提案です。経済的メリットと見守りのマッチングの提案です。二つは「介護予防リーダー育成」の提案です。地域活動リーダーを育成し、活動を広げていくという提案です。三つは「農業を通じた地域交流」の提案です。農業を通じて学生と高齢者との交流を促進するという提案です。
司会；子どもたちの学習支援の参加・八王子祭りやいちょう祭り・ゴミの分別収集等、学生と行政が繋がっているケースは結構多いが市民に良く伝えられていないのかもしれないかもしれません。課題はあるかもしれませんが実際には学生は八王子の大事な財産であり資源であります。

【首都大学東京とつくる南大沢～みなみおおさまカフェ～】

首都大学東京大学院人文科学研究科 篠崎 ひかる 氏 ・ 焦 安然 氏

・焦安然（詳細配布資料首都大学東京とつくる南大沢「みなみおおさまカフェ」参照）

みなみおおさまカフェとは…教職員・学生・包括南大沢・高齢者福祉課・市民活動協議会・民生委員・社協・大沢保健福祉センター・南大沢を知って欲しい会が行っているコミュニティーカフェのプロジェクトです。地域社会の「たまり場・居場所」で地域住民交流や地域課題解決（子育て支援や介護疲れ防止等）の場です。切っ掛け…地域の様々な課題に対し住民の引きこもりや孤立を防ぎ、住民同士の繋がりを構築するためです。利点…①気軽に立ち寄れる②要望に合わせ内容や運営形態を決められる➡網目から漏れている人も利用し易い。
・篠崎ひかる；コミュニティーカフェのイメージをご理解頂くために写真を用意させて頂きました➡企画会議の様子、珈琲コーディネーターの斎藤さんの準備風景、各種イベント（クラブ団体の発表・焦さんの中国正月講話等）について説明があった。今後の課題はボランティアをやる学生をもっと増やすことと後継者育成です。今後は負担に感じることなく気楽に楽しんでやる環境や雰囲気づくりをしたい。コミュニティーカフェを通じ

やっと地域活動に入れたと思っています。お互いに歩み寄って理解し合えるのがカフェの意義とっており、互助に繋がっていくように思います。毎月第2火曜日首都大学東京国際交流会館で開催しております。今回は12月12日(火)10時~12時です。参加費は100円でお替り自由です。来月はクリスマスなのでクリスマスパーティーの楽しい企画を皆で考えたところですので来て頂ければ嬉しいです。1月は卒論があり休刊日です。司会;高齢者支援は「サービスの効果的实施」です。先輩は若い学生がやっている姿を見て元気を貰う訳です。学生もお互いを知るということを通じて学ぶ訳です。街づくりは税金の使い道の選択肢ではなく、新しい地域社会の街づくりを皆で考えていこう、そんな意味合いではなからうかと思ひます。報告有難うございました。

【学生が取り組む空き店舗再生~地域の居場所づくり】 詳細配布資料「学生が取り組む空き店舗再生」参照

法政大学多摩地域交流センター コーディネーター 本野 直子 氏

法政大学多摩地域交流センターでは14のプロジェクトが8地域で活動しておりコーディネーターが2名体制で付いています。本日は具体的なチーム紹介を致します。先ず@団地チームの紹介をします。学生自身が他所者・若者・馬鹿者として地域の起爆剤になると決めたチームです。月1回グリーンヒル寺田でコミュニティーカフェを開いており4~5年続いています。先ず、地域の人たちにお願ひし、シャッター店舗に炬燵やストーブを持ち込んで、持参のご飯を食べ、交流する場所になりうる確認をしました。この場所を皆の福祉拠点にしていくことを決め、法政大学とURと八王子市が協定を結び、いろんなことを仕掛けていきました。カフェと@団地が月1回実施しました。ガレージを住民の手で改装し2016年1月オープン2017年4月Caféおひさまが住民の手で始まりこれまで延3,000人位が来所しています。この活動で「学生が起爆剤」という課題と目標は達成できましたが次の目標が見えなくなっています。早く見つけて欲しいと思っています。「おひさま広場」はおひさま広場運営委員会が推進していますが、常駐の方がいないのが課題になっています。協定期間が切れても続けていけるよう話し合っています。今またスーパー閉店の危機があり新たな仕組を考えているところです。

【市民自治型共生社会への「やまぼうし」のアプローチ】 認定NPO法人やまぼうし 理事長 伊藤 勲 氏

大学入口にあるカフェを開催させて頂いており魅力的なカフェにしていきたいと思ひております。個人的には大学図書館を都民であれば使用できる便宜を頂いており、今回のシンポジウムも含めいろいろな機会を与えて頂いており、この場を借りてお礼申し上げます。やまぼうしは1970年代以降市民自治型共生社会を目指してアプローチしてきましたが4つのステップに分けることができます。ステージ1施設を改革する(街の八百屋を作ろう) ステージ2街を耕す(多機能複合型事業所開設) 第3ステップ街の姿を変える(廃校を多世帯交流拠点形成・大学カフェでのプラットホーム形成) 第4ステップ街をデザインする(自立と共生のスローネットワーク・高幡台団地活性化プロジェクト)です。1980年国際障害者年で「障害者の完全参加と平等」が国際的に標榜されるようになりました。地域にグループホームを作ろうとすると相当激しい反対に会います。昨年の府中療育センター問題で、社会の中に根強く根付いている差別の問題です。入所者は地域で生きられないからやむを得ず特養に入っているのであり、その状態が変わっていないから全国に圧倒的に多くの重度の障害者は施設に頼らざるを得ないのです。施設解体は殆ど進んでいません。世間は考え方を改めて問われた事件でした。1981年開設の府中療育センターは画期的な施設ですが、42項目要求で分かる通り何故権利が剥奪されるのか何故人権侵害が許容されるのかここが問題だったのです。ステップ2で「障壁のない地域社会日野を作る会」を立ち上げこの問題に立ち向かうべく府中を退所した方を会長とし「市民版・ひのまちづくりマスタープラン」を策定しました。2001年NPOやまぼうしを創設し、多機能複合型事業所開設・廃校を多世帯交流拠点形成・明星大学スターショップス開店・法政大学・多摩キャンパス「大学の駅・エッグドーム」や首都大カフェ開設を通じてこの思いを実践してきました。今後は大学の潜在力を生かし未来志向型で街をデザインしていきたい。「長生きして良かった」と実感できるコミュニティーを創出する、これが「スローワールド」基本コンセプトであり、障害者の思いを形にする進化的事業です。16事業所、年5億円、職員120名体制になり、毎年1カ所拠点を増設しております。目下の課題は「高幡台団地活性化プロジェクト」です。有難うございました。

パネルディスカッション (15:30) 司会 八王子自治研究センター 理事長 藤岡 一昭 氏

司会;公立大学の地域アプローチとか八王子の大学間連携のあり方等について「こうすれば学生はもっと地域

社会に馴染むのではないか」といった率直なご意見を、先ず岸本さんからお伺いしたい。

岸本；地域 LINK topos を開催している所もあります。例えば関西の中での LINK topos の繋がりでは情報交換の場があったりします。大学の中でも地域活動団体同士が繋がる場もあります。八王子でも地域活動団体同士が集まる場があればいいなあと思います。どうすれば繋がれるのか良いアイデアはありません。シンポジウムのような場を設けて頂ければ初めて「顔と顔が出会う」機会ができると思います。可能であればこのような場をセッティングして頂ければ幸いです。学生は世界とか大きな枠組の中で物事を考えることが多いのですが、こんな身近な所に新しい社会が広がっていることを私自身初めて学びました。身近な所から視野を広げるよう学生にはメッセージとして伝えたい。地域のために貢献したいとか、自分自身を高めたいという学生はおりますが、授業やアルバイトで忙しく、時間や切っ掛けがつかめない学生が多いように思います。「顔と顔が出会う」ような無理のない形で始められれば良いと思います。

司会；法政大学には、組織として、機関としての目標を伺いたい。

本野；多摩地域交流センターの設置目標は「ボランティアセンターの魅力を出す」ことにあったのは大きい。法政大学ボランティアセンターはプロジェクト型(学生が自らやりたいことを見つけたいことが叶えられる)なので成熟迄時間が掛かると思います。地域の人と学生のニーズは違うので調整にコーディネーターが欲しい。活動するチームを沢山作るのは良い方法で、刺激し合い、繋がり合い、良い地域活動に育っていくと思います。

司会；地域から見て「多摩地域交流センター」のようなしっかりした表札があるのはお付き合いし易いです。学生が地域と交流するには壁があると思います。留学生として言葉や生活のハンディもあります。如何ですか。

焦；日本に来て4年、東京に来て2年です。みなみおおさまカフェで20代から80代迄の多くの方達と接し嬉しくもあり、大変貴重な体験をさせて頂きました。

司会；中国から来て80歳の人と会話できる…何て素晴らしいことでしょう。皆さん顔見知りになって下さい。

伊藤；去年迄学生で法政大学工業政策修士課程を卒業しました。生涯現役学生宣言をし70歳で入学しました。学びの機会は無限にあります。足元に全ての問題が集約されており、日本の縮図や世界が凝縮されています。そこをどれだけ掘り下げていっているかが問題です。まだグローバルにはなり切れていないのが課題です。

司会；このシンポジウムの目的を大学施設と学生と地域社会がどう分かち合っていくか、利益を共有していくか、これに高齢者福祉という大変な政策課題をどう調和させていくか、市長になり代わって一言どうぞ…。

溝部；最近では多岐に亘る分野の担当部署と協働しないと先に進めない課題に直面しています。今日も八王子市市民活動支援センター、障害者団体、大学等いろんな分野で活躍されておられる方達とコラボしております。こうした積み重ねが将来のネットワーク構築に大きな力になります。引き続き力を入れていきたいと思っております。

司会；具体的にどう協働していくか、どうお金を出していくか、どう成果を共有していくか、見えていません。

会場にお見えの皆さんと一緒に考えていきたいという思いを受け止めて頂ければ目的は達成できたと思っております。

第3部；パフォーマンス (15:40)「みなみおおさまカフェ」に参加している学生グループ

第4部；まとめ (16:10) 首都大学東京 都市教養学部 教授 和気 純子 氏

今日は日曜日であるにも関わらずこんなに多くの方々が首都大学東京でのシンポジウムにお集まり頂きまして本当に有難うございます。市役所の方、平川病院理事長の平川先生他、皆様プライベートにお越し頂きまして本当に感謝申し上げます。今日は「みなみおおさまカフェ」との関わりの中で事業を共催させて頂きました。先程学長補佐の西村先生より開かれた大学の話がありましたが、これまでこのような活動がこれまで全くなく、地域とは殆ど関わりのない大学でした。大学がワールドランキングを争っており、日本で7番目ということでHPを大々的に飾っているという大学でして、職員も地域に目を向ける余裕がない、取り敢えず緊急で力を発揮しなければいけないということでやっておりました。11月社会福祉学という領域で学会を開かせて頂いたのですが、全国から800人位の方がお集まり頂きました。各大学は何回も引き受けているのに首都大学東京は50数年振りの開催でした。そんな中私が皆さんと一緒に重い扉を開きました。八王子市、地域包括支援センターの

方々、八王子市民活動協議会の方々共々に一歩ずつ地域に開かれた大学になるように歩みを進めて頂きたいと思っております。ボランティアセンターもできたのが昨年という驚くべき状況で、まだコーディネーターも一人しかいない状況です。「みなみおおさまカフェ」も1周年ですが、半年以上かけて、八王子市の方々・地域包括支援センターの方々と一緒に企画をして今日に至っています。私自身も国際学会役員もやっております。国際的なメールのやり取りは毎日やっておりますが地域に出たことは余りなく、学生が集まっている国際的なメールのやり取りは毎日やっておりますが地域に出たことは余りありません。学生が集まっているサークルに参加し、初めて一軒一軒ドアをノックし協力をお願いを致しました。この活動は、学生も地域の方も専門職の方も市の方もフラットな関係で、お茶を飲みながら共助の街づくりをしているサークルです。本当に仲良く、夫々の個性を生かしながら、教え合いながら、支え合いながら、できる限り一歩一歩進めて参りますので皆様どうぞ宜しくお願い致します。

閉会挨拶 (16:20) 八王子自治研究センター 理事長 藤岡 一昭 氏

今日は大学と地域で共助の街づくりということで皆様休日の中お集まり頂きまして有難うございました。受付で確認しました所 100 名ご参加があったそうです。この機会に将来の課題に向けて決められればと参加頂き、心から感謝申し上げます。先程和気先生より可成りご謙遜されたご挨拶がありましたが、首都大学東京には、この施設も含めて物心両面で今日のシンポジウムの下支えをして頂きましたし、学生の皆様には前に出て登場して頂きました。それらの勇気ある行動に改めてお礼を申し上げたいと思います。本当に有難うございました。市民活動協議会と自治研センターとは様々なシンポジウムを作り上げてきているのですが、毎年この時期共助の街づくりのシンポジウムを開催しております。実は第1回共助の街づくりシンポジウムは平川先生をメインに共助の街づくりの革新についてご提議をして頂きました。当時からそこ迄理解することができなかったのですが、漸く形になりつつあるのかなあ…と感じもしております。1月27日「八王子市の地域福祉の状況と課題」～地域福祉に応える市民力・地域力～を市民活動協議会を中心とした「市民活動団体がこれから何を目標に市民活動を進めていくのか」一定の交通整理をしながら力を集約する目的で開催致します。都市開け早々ですが再びこうやって熱く燃え上がるよう次の取組に活かしていきたいと思っております。自治研究センターについてもシンクタンクとして来年以降も活動させて頂ければと、合わせて申し上げます。閉会のご挨拶とさせて頂きます。

交流会 (16:30) ホールロビーにて

終 了 (17:30)